

令和7年度 みんなの森こども園 自己評価表

A たいへんよい
B よい
C 一部検討を要する
D 改善を要する

令和8年4月公表

項目		内 容	評価（該当する区分に○印）				備考
			A	B	C	D	
保育目標について		(1) 保育目標は社会の要請や保護者の願いを反映しているか。		○			・職員会議やリーダー会議、フロア会議を活用し共通理解を図っている。令和7年度に検討を重ね、令和8年度は2～5階の異年齢保育の徹底を目標とし、共通理解はできている。
		(2) 目標は、前年度の反省を生かしているか。		○			
		(3) 目標は、全職員の共通理解を図っているか。	○				
保育について		(1) 指導計画は乳幼児の実態に即して作成しているか。	○				子どもの姿や成長を捉え、日々の保育の中に取り入れることができた。定期的に環境を替え、子どもの姿をより深く見ようとした。保育の改善にも繋がった。
		(2) 保育所保育指針に基づく、援助・支援を適切に行っているか。		○			
		(3) 環境の構成を意識して保育や過程を常に工夫しているか。	○				
		(4) 素材・用具を適切に活用しているか。		○			
		(5) 評価結果を基に、保育の改善に努めているか。		○			
日・時・程		(1) 1日の流れ（デイリプログラム）は現行でよい。	○				・通案で共有し、子どもに合わせて流れを確認している。
行事について		(1) 行事の種類や実施回数は適切か。	○				・計画的に準備を進め園全体として取り組むことができた。担当を決め、進めていくが、再度、保育委員会を中心に進め具合など確認するようにした。行事後は、保護者アンケートを配布し、意見を求め改善できるところは積極的にを行った。 ・毎月各学年ごとに活動計画を作成し、実行している。
		(2) 行事のねらいを計画や実施に十分生かしているか。	○				
		(3) 乳児・幼児の活動範囲を明確にし、自主的、実践的な活動にしているか。	○				
		(4) 計画・実施・評価・改善の体制をとっているか。	○				
		(5) 保護者の願いや意見を取り入れているか。	○				
経営・組織	分掌・体制	(1) 能率的、合理的な運営組織になっているか。	○				・事務分掌で業務を明確にすることで効率的に業務ができた。 ・行事等の準備も協力しながらでき、協働できる体制が整っていた。
		(2) 職務内容が明確で、協働できる体制になっているか。	○				
		(3) 職員の配置は適材・適所か。		○			
		(4) 係や仕事の分担は適切か。		○			
	全体運営	(1) 各種会議を適切かつ効率的に進めているか。		○			・保育については、異年齢での活動を主体としながら、適宜同年齢での活動を取り入れることで、子ども同士の関係性向上や発達課題への意識を促すことができた。 ・虐待防止観点からも、チーム保育は双方の動きがわかりやすく職員の困りも見えた。
		(2) 職員相互がそれぞれ全体的立場を理解し、協力や助言を惜しむことなく施設の運営に関わっているか。		○			
		(3) 打合せ回数、時間、内容は適切か。		○			
	クラス運営	(1) 0・1歳と2・5歳のフロア運営は、保育目標に基づき行われているか。		○			・安全計画を立て、毎月の避難・消火訓練を行っている。 ・交通安全指導は、5歳児さんを対象に交通安全協会の講師に來園してもらい、交通ルールを伝え、たほか、散歩に行った時などに子どもにも交通ルールを伝えた。 ・虐待を疑われる場合の対応方法や連絡先を共有し、市子ども家庭支援センター及び県の児童相談所と常に連携をしている。 ・個人情報については、家庭ごと同意書をお願いし適切に取り扱っている。
		(2) 異年齢及び同年齢の効果的な活動の充実を図っているか。	○				
		(3) チーム保育を適切に行っているか。	○				
	保健・安全指	(1) 0・1歳と2・5歳の保健対策は適切に行われているか。	○				・交通安全指導は、5歳児さんを対象に交通安全協会の講師に來園してもらい、交通ルールを伝え、たほか、散歩に行った時などに子どもにも交通ルールを伝えた。 ・虐待を疑われる場合の対応方法や連絡先を共有し、市子ども家庭支援センター及び県の児童相談所と常に連携をしている。 ・個人情報については、家庭ごと同意書をお願いし適切に取り扱っている。
		(2) 避難訓練・防犯訓練・交通安全指導を適切に実施しているか。	○				
		(3) 健康・安全な生活に必要な習慣や態度育成のため、家庭への啓発をおこなっているか。		○			
		(4) 乳幼児の安全確保のため、関係機関との連携を図っているか。	○				
	情報	(5) 乳幼児や保護者に関する個人情報を適正に取り扱っているか。	○				
研修会・講習会について		(1) 各種研修会、講習会への参加態勢の充実を図っているか。	○				法人内の保育研修、他法人との合同研修、オンラインのマネジメント研修、キャリアアップ研修等に積極的に参加させ、研修報告を会議で周知するなど保育の振り返りになるよう務めた。園内研修は自分たちの保育を見直すきっかけになり効果的だった。
		(2) 各種研修会、講習会への参加について、職員のニーズを把握しているか。	○				
		(3) 各種研修会、講習会での内容を所内に還元しているか。	○				
施設・設備		(1) 施設・設備の安全点検を計画的に行っているか。	○				・安全委員を中心に毎月安全点検をおこなっている。修繕箇所があると迅速に対応した。また、遊具点検も専門業者に実施されており、保護者にも閲覧可能としている。 ・不審者訓練を年1回行い対応に努めている。
		(2) 遊具・用具等を活用しやすいように整理・保管しているか。	○				
		(3) 不審者等に対応する周知な配慮を行っているか。		○			
		(4) 掲示板、掲示場所等を適切かつ効果的に活用しているか。		○			
出納・経理		(1) 各種会計を適正かつ適切に処理しているか。	○				外部監査を受け適切に処理できている。
開かれた保育所づくり	施設間交流・連携	(1) 他施設等と交流は、保育目標や課題に沿ったものになっているか。		○			・小学校との交流については、近隣の小学校の児童とのドングリ拾い交流を行ったり、小学校での交流を行ったり活発に行っている。 ・園児学対応については常時謝っているほか、保護者対象の定例公開日をもつて受け入れを行った。
		(2) 他施設等の幼児と触れ合うことで、幼児が楽しく過ごし、充実感を味わうことができるような配慮や援助・支援を行っているか。		○			
		(3) 保育者同士が合同研修を行い、互いの保育に対する理解を深め、援助についての共通理解を図っているか。	○				
		(4) 会議や参観に参加するなどして、小学校と情報交換・交流し、小学校接続の取り組みを行っているか。	○				
		(5) 日常的に情報を交換し、交流活動に生かしているか。		○			
	地域との連携	(1) 保護者以外も対象にした園児学等を設定しているか。	○				・常時、園児学の対応をおこなっている。 ・地域交流に関しては、園児の希望により、近隣のごみ処理センターや美容院に見学に行った。 ・公開日を決めて、青空ルームとして、親子での保育体験などの受け入れをしている。 ・育児講演会として年齢に応じたおもちゃの遊び方講座を実施した。
		(2) 幼児の興味や関心に基づいて、地域社会・その他の施設と交流しているか。		○			
		(3) 地域の行事に積極的に参加し、地域の文化や生活に触れているか。				○	
	子育て支援の推進	(1) 地域の子育てセンターとして、園庭や保育室等を開放しているか。		○			・保護者面談を定期的に実施したほか、希望があれば随時に面談を行い、支援を行った。 ・姉妹園である、児童発達支援事業所と連携を図りながら、専門機関へ駆けやすくなり情報を共有することができている。 ・保護者向けには「園だより等」の各種便りを定期的に、ふんだんに発行しているが、ホームページはもう少し更新の頻度を高める必要がある。
		(2) 「子育てについて」など、保護者を対象とした学習の機会を設定しているか。		○			
		(3) 職員による育児に係る「子育て相談」は充実しているか。	○				
		(4) 医療機関、児童相談所等の専門機関と連携をとり、保護者にとって必要な情報を提供しているか。	○				
	情報発信	(1) 保育所だより・クラス通信、ホームページ等で、施設の情報を発信しているか。		○			
		(2) 行事や子育て支援事業等を地域の連絡会や児童施設、小学校に対して周知しているか。				○	
	外部評価	(1) 第三者評価を導入し、施設運営に反映しているか。	○				・第三者委員制度を活用しているが、大きな苦情はなし。
		(2) 第三者委員制度を活用しているか。	○				

令和7年度なかまの森こども園自己評価表

A	たいへんよい
B	よい
C	一部検討を要する
D	改善を要する

令和8年4月公表

項 目		内 容	評 価				備 考	
			A	B	C	D		
保育目標について		(1) 保育目標は社会の要請や保護者の願いを反映しているか。		○			・職員会議、フロアー会議及び各種委員会等を活用し、周知徹底を図った。	
		(2) 目標は、前年度の反省を生かしているか。		○				
		(3) 目標は、全職員の共通理解を図っているか。		○				
保育について		(1) 指導計画は乳幼児の実態に即して作成しているか。		○			・園児の日々の様子を確認するとともに適切な援助を実施した。 ・園児の発達や興味に合わせた環境構成に努めた。 ・教員、教材は園児の成長・発達・興味に合わせて柔軟に提供した。	
		(2) 保育所保育指針に基づく、援助・支援を適切に行っているか。		○				
		(3) 環境の構成を意識して保育や過程を常に工夫しているか。		○				
		(4) 素材・用具を適切に活用しているか。		○				
		(5) 評価結果を基に、保育の改善に努めているか。		○				
日・時・程		(1) 1日の流れ（デイリープログラム）は現行でよいか。		○			子どもの発達・状況の変化に合せて改善していく。	
行事について		(1) 行事の種類や実施回数は適切か。		○			・コロナ禍も少し落ちついたことから、通常どりの行事や活動ができた。	
		(2) 行事のねらいを計画や実施に十分生かしているか。		○				
		(3) 乳児・幼児の活動範囲を明確にし、自主的、実践的な活動にしているか。		○				
		(4) 計画・実施・評価・改善の体制をとっているか。		○				
		(5) 保護者の願いや意見を取り入れているか。		○				
経営・組織	分 掌 ・ 体 制	(1) 能率的、合理的な運営組織になっているか。		○			・異年齢保育、チーム保育という特性を理解し職員間相互に協力しながら日々の保育の質の向上に努めた。 ・感染症等衛生面においても充分配慮した。 ・職員会議において、各委員会からの伝達事項を共有している。 ・個人情報については、家庭毎の同意書に基づき、適切に取り扱っている。	
		(2) 職務内容が明確で、協働できる体制になっているか。		○				
		(3) 職員の配置は適材・適所か。		○				
		(4) 係や仕事の分担は適切か。		○				
	運 営 ク	(1) 各種会議を適切かつ効率的に進めているか。	○					
		(2) 職員相互がそれぞれ全体的立場を理解し、協力や助言を惜しむことなく施設の運営に関わっているか。		○				
		(3) 打合せ回数、時間、内容は適切か。	○					
	ラ ス 経 営	(1) 0-1歳と2-5歳のクラス経営は、保育目標に基づき行われているか。		○				
		(2) 異年齢児及び同年齢児の効果的な活動の充実を図っているか。		○				
		(3) チーム保育を適切に行っているか。		○				
	健 ・ 安 全 指 導	(1) 0-1歳と2-5歳の保健対策は適切に行われているか。		○				
		(2) 避難訓練・防犯訓練・交通安全指導を適切に実施しているか。	○					
		(3) 健康・安全な生活に必要な習慣や態度育成のため、家庭への啓発をおこなっているか。		○				
		(4) 乳幼児の安全確保のため、関係機関との連携を図っているか。		○				
	情 報	(5) 乳幼児や保護者に関する個人情報を適正に取り扱っているか。	○					
研修会・講習会について		(1) 各種研修会、講習会への参加態勢の充実を図っているか。	○				・コロナ禍も少し落ちついたことから、研修等積極的に受講した。 ・他法人との合同研修にも積極的に参加した。	
		(2) 各種研修会、講習会への参加について、職員のニーズを把握しているか。	○					
		(3) 各種研修会、講習会での内容を所内に還元しているか。		○				
施設・設備		(1) 施設・設備の安全点検を計画的に行っているか。		○			・修繕等必要な箇所は、迅速に対応し、改善した。	
		(2) 遊具・用具等を活用しやすいように整理・保管しているか。		○				
		(3) 不審者等に対応する周到な配慮を行っているか。	○					
		(4) 掲示板、掲示場所等を適切かつ効果的に活用しているか。	○					
出納・経理		(1) 各種会計を適正かつ適切に処理しているか。	○					
開 か れ た 保 育 所 づ く り	施 設 間 交 流 ・ 連 携	(1) 他施設等と交流は、保育目標や課題に沿ったものになっているか。		○			・コロナ禍も少し落ちついたことから、以前のように各種研修や活動等に参加した。 ・保育の様子をおうちえんにより、動画配信した。 ・保護者対象の保育参観を3回実施した。 ・教育理念・方針について、フロアーだより及び園だよりにより、発信した。	
		(2) 他施設等の幼児と触れ合うことで、幼児が楽しく過ごし、充実感を味わうことができるような配慮や援助・支援を行っているか。		○				
		(3) 保育者同士が合同研修を行い、互いの保育に対する理解を深め援助についての共通理解を図っているか。。		○				
		(4) 参観に参加するなどして、小学校の教育を理解しているか。		○				
		(5) 日常的に情報を交換し、交流活動に生かしているか。		○				
	域 と の 連 携	(1) 保護者以外にも対象にした参観日等を設定しているか。		○				
		(2) 幼児の興味や関心に基づいて、地域社会・その他の施設と交流しているか。		○				
		(3) 地域の行事に積極的に参加し、地域の文化や生活に触れているか。		○				
	育 て 支 援 の 推 進	(1) 地域の子育てセンターとして、園庭や保育室等を開放しているか。		○				
		(2) 「子育てについて」など、保護者を対象とした学習の機会を設定しているか。		○				
		(3) 職員による育児に係る「子育て相談」は充実しているか。		○				
		(4) 医療機関、児童相談所等の専門機関と連携をとり、保護者にとって必要な情報を提供しているか。		○				
	情 報 の 発 信	(1) 保育所だより・クラス通信、ホームページ等で、施設の情報を発信しているか。	○					
		(2) 行事や子育て支援事業等を地域の連絡会や児童施設、小学校に対して周知しているか		○				
	部 評	(1) 第三者評価を導入し、施設運営に反映しているか。		○				・第三者評価は、令和2年度に実施した。 (令和7年度受審予定) ・第三者委員会は、令和7年3月に実施した。
		(2) 第三者委員制度を活用しているか。		○				

○事業所名	児童発達支援事業所　しなやかな森大在			
○保護者評価実施期間	令和　8年　1月　27日		～	令和　7年　2月　7日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	39	(回答者数)	29
○従業者評価実施期間	令和　8年　2月2日		～	令和　8年　2月　7日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数)	8
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年　2月　25日			

○ 分析結果			
	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	関係機関との連携	情報の共有を行い、個別の課題の整理、相談支援を行っている	個別支援計画作成に関係機関各担当者に意見を求め反映させる
2	言語聴覚士・作業療法士の配置		集団活動や家庭でも取り組めるように、発信を検討する
3			

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	研修が少ない	指導対象の研修・訓練は行っているが、それ以外の研修が少なく専門分野での共通理解が足りていないと思われる	言語聴覚士・作業療法士が在籍しているので各専門職からの内部研修の実施を行う
2	保護者の向けての情報の発信が少ない	連携している機関との繋がりは強いが、各家庭や保護者への発信が少なく感じている	連絡帳、ブログ等を活用し活動や研修、見学会等に取り組む
3			

事業所名		児童発達支援事業所 しなやかな森大在				
		公表日 令和8年 2月 27日				
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	8		スペースは十分に取れている	利用児や活動に応じたスペースの確保
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	6	2	適切である	利用児の身体及び精神的状態により、限られた人員の中で配置に工夫が必要
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	6	2	個別訓練室、活動場所が分かれているスロープの設置がある。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	8		毎日行う清掃と、定期的に行う清掃を職員会議で確認しながら、環境衛生に努めている	小集団で支援を行う中で、子どもたちそれぞれの特性に合わせた環境作りに課題がある
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	8		個別訓練室と静養室を必要に応じて使用している	
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	8		月に一度職員会議を開催し、職員全体の共通理解を図っている	十分な時間の確保が難しい
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8			評価表配布のタイミングを工夫して回収率を上げることができるとよい
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8		職員会議の中で取り組んでいる	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		8		第三者による外部評価は実施していないので今後検討する
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	8		年間スケジュールにて研修の機会は確保されている。外部の研修にも随時体制を考えながら、参加できるようにしている	来年度も年間のスケジュールに予定を組み込むように対応していく
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	8		作成、公表している	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	8		来所時のこども様子と保護者からの聞き取り分析を行い児童発達支援計画を作成している。	児童発達支援計画作成時以外でも保護者への聞き取りの機会を増やす。
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	8		定例会議の際、利用児について検討をする機会をもうけている	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	8		事業所内会議を行い職員間で共有している。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	8		医療機関や関係機関で実施された検査結果を共有いただき、参考にしていく。事業所内では観察記録をとり、継続的にアセスメントを行っている	
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	8		ガイドラインに沿った個別支援計画作成の様式を考えながら事業所で必要に応じて改定している	加算の把握と個別支援計画への記載
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	8		支援員と機能訓練士が話し合いながら案を立てている	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	8		利用児が平等に、各テーマに沿った支援が受けられるように工夫している	スペースや活動に必要な教材・道具が限られているため、活動のバリエーションに工夫が必要
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせで児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	8		発達段階に応じた個別、集団における課題を見つけ、支援計画を作成している 機能訓練士の見解も聞き、個に必要な支援を考えている	機能訓練士が複数の事業所を兼務しているので、バランスよく支援に入れる体制を考えている
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	8		必ず朝にミーティングを行い、内容、役割等を確認している。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	8			
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	8		支援計画に基づいた記録を行い、支援に繋げている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	8		6ヶ月に1度以上はモニタリングを行い支援計画を見直している。	
	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	8		主に児童発達支援管理責任者、ST、OTが参画しているが、参加できない時は事前に聞き取った内容を伝える	

関係機関や保護者との連携	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	7			
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	8			
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	4	1	担当の相談支援員と情報の共有はすでに行っている	必要に応じて情報を共有し、連携する準備はしている
	28	(28～30は、センターのみ回答)				
	28	地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会なども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答)	1	2	担当者会議等で連携を図っている。	今後スーパーバイズ、助言等の依頼を検討する。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。				
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	4	2	通園先のこども園とは通所調整連絡の際に情報交換を行っている。	
保護者への説明等	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	6		連絡帳アプリにて日々の活動内容や意見の聞き取りを行っている。	
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	3	4		ペアレント・トレーニングは実施すべきだと思うが、まだ取り組めていないので検討し、実施できるようにしていく
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6		契約時に説明している。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6		アセスメント、モニタリング時に十分に聞き取りを行い。	
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	6		目標や支援方法を説明した上で同意を得ている。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	8		半年に一回の面談を行っている。また、相談したい事があれば随時対応している。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	3	4		保護者会等の組織はありませんが、必要があるかないかを保護者に伺ってまいります。また、交流の場としてイベント等開催を検討します。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	8			
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	8			
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	8		個人情報の記載された書類などは鍵付きの書庫にて保管している。また掲示物等に個人情報が含まれないように配慮している。	
非常時等の対応	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	8		連絡帳アプリにて日々の活動内容や意見の聞き取りを行っている。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	4	4		行事の開催を検討する。
	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	8		各マニュアルの策定、契約時に説明している。訓練は	玄関等に掲示し内容を周知する実施している。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	8		策定、訓練等行っている。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	7		アセスメント時に聞き取りを行っている。	
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	5	1	アセスメント時に聞き取っている。 現時点で対象児童なし	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	8		安全計画を作成し、研修、訓練を行った上で支援をしている。	
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	8			安全計画の内容の周知は足りていないと思われるので、契約時等に伝えるようにしたい

	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	8		職員会議の際、ヒヤリハットの内容を共有し検討している	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	8		定期的に虐待防止研修を行っている	
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	5	2	身体拘束適正化委員会を開催しており、保護者へは契約時に説明している。現在対象児童なし	

○事業所名	保育所等訪問支援事業所 しなやかな森大在		
○保護者評価実施期間	令和8年 1月 27日 ～ 令和8年 2月 7日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	34 (回答者数)	28
○従業者評価実施期間	令和8年 1月 27日 ～ 令和8年 2月 7日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5 (回答者数)	5
○訪問先施設評価実施期間	令和8年 1月 27日 ～ 令和8年 2月 7日		
○訪問先施設評価有効回答数	(対象数)	5 (回答者数)	4
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 2月 25日		

○分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	作業療法士・言語聴覚士が在籍している。	機能訓練士の視点からの支援も取り入れている。	保育士と連携する事で個別だけではなく集団での機能訓練に取り組む。
2	認定こども園を運営している法人である為、経験豊富な保育士が訪問に携われる。	児童の特性に寄り添った支援ができるよう、訪問先の先生方と連携を取っている。	保護者だけでなく、園とも訪問の際の具体的な目的を話し合う。
3	就学時の移行支援の際に学校への情報提供ができる。	保護者・学校の希望により、情報提供を行っている。	学校から就学後に必要な情報を聞き取り今後の訪問支援の着眼点に取り入れる。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保育所等訪問の提供が断続的である。	児童発達支援事業所と兼務の為、訪問回数に限られ訪問に行けない月もある。また、職員の体調不良などにより提供が中止になる事があった。	訪問支援専属の職員の配置を検討する。また、職員に体調管理や勤務時の手指消毒に取り組んでもらう。
2	多種多様な児童の特性に関して、支援内容が追いついていない。	自己研鑽の研修や勉強会の機会が少ない。	内部外部問わず、定期的に研修時間の確保を検討する。
3	家族も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていない。	研修会の開催、情報提供の場の設定等取り組めなかった。	機能訓練担当職員による研修会を検討する。

事業所名		公表日				
保育所等訪問支援事業所 しなやかな森大在		令和7年 2月 27日				
		チェック項目	はい	いいえ	工夫していると思う点・改善が必要だと 思われる点など	課題や改善すべき点
現・運営・体制整	1	訪問支援に使用する場合の教員教材は適切であるか。	4		視覚支援などで必要な教材は用意しているが使う機会がない。	
	2	利用希望者に対して、職員の配置数は適切であるか。	3	1	児発の職員と兼務している為、職員の体調不良などで支援が行われない事があった。	職員の健康管理に努めます。
業務改善	3	業務改善を進めるためのPDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	5			
	4	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4			
	5	従業者の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5			
	6	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		4		外部からの第三者評価はおこなっておりません。必要により機会を設けるように検討いたします。
	7	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	5			
適切な支援の提供	8	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、保育所等訪問支援計画を作成しているか。	5			
	9	保育所等訪問支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	5			
	10	保育所等訪問支援計画を作成する際には、訪問先施設の担当者等と連携し、訪問先施設や担任等の意向を盛り込んでいるか。	5			
	11	保育所等訪問支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	5			
	12	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	4			
	13	保育所等訪問支援計画には、保育所等訪問支援ガイドラインの「保育所等訪問支援の具体的内容」も踏まえながら、具体的な支援内容が設定されているか。	5			
	14	保育所等訪問支援計画が職員間で共有され、計画に沿った支援が行われているか。	4			
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	5			
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	5			
	17	保育所等訪問支援を実施する際、訪問先の理念や支援手法を尊重して支援を行っているか。	5			
関係機関や保護者との連携	18	毎回の支援に関して、記録を取ることを徹底し、支援の検証・改善に繋げているか。	5			
	19	定期的に保護者や訪問先の意向の確認やモニタリングを行い、保育所等訪問支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	5			
	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	5			
	21	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	4			
	22	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	3			保護者より申し出があった場合に紙面にて情報共有をさせていただいております。
	23	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等に助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	3			専門機関等からの助言は受けていないが、法人内の他事業所との意見交換や助言は受けている
	24	(自立支援)協議会子こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	1	1		人員配置に余裕がある際は積極的に参加していきたいと考えております
	25	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	5			

	26	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。		4		見学会や研修会を開催できるよう、準備を進めてまいります。
保護者等への説明等	27	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	3			
	28	訪問先施設に対し、事業の趣旨や訪問支援の目的等について適切に説明を行っているか。	5			
	29	保育所等訪問支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	5			
	30	「保育所等訪問支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から保育所等訪問支援計画の同意を得ているか。	5			
	31	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか。	5			
	32	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。		3		保護者様の交流の機会も、様々なスタイルを考慮し、検討してまいります。
	33	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	5			
	34	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	5			
	35	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	5			
	36	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	5			
訪問先施設への説明等	37	訪問支援に加え、訪問先からの相談等に適切に応じる体制を整え、必要な助言や支援を行っているか。	5			
	38	保育所等訪問支援の実施後に、訪問先施設とカンファレンスを行っているか。	4			
	39	保育所等訪問支援の実施後に、家族等へ適切に支援内容等の共有を行っているか。	5			
	40	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	5			
	41	訪問先施設からの相談に適切に応じ、信頼関係を築きながら、専門的な助言を行っているか。	5			さらに改良できるよう学べる機会があるのでさらに活用していく
非常時等の対応	42	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	4			
	43	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	5			
	44	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	5			
	45	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	5			
	46	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	4			

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		児童発達支援事業所 しなやかな森牧(児童発達支援事業)				公表日 令和 8年 3月 10日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	5		・大変余裕がありメリハリのついた活動ができていていると思う ・静養室や個別訓練室等が設置されており、場面転換などしやすい環境がある。		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	5		余裕があり、子どもたちに柔軟に対応できていると思う		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	5			玄関にはスロープがないので必要があれば設置する。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	5		毎日活動後に清掃を行っている。	定期的に手の回らない箇所の清掃・消毒を行う。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	5		個別支援で利用できる環境である。		
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	5		月に一度職員会議を開催している。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5		自己評価表により意向の把握等行っている。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5		職員会議の中で取り組んでいる。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。				第三者による外部評価は実施予定はないので検討していきます。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	5	5	社内研修、外部研修にて定期的に勉強会、研修会を実施している。		
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	5		作成、公表している。	今後も継続していく。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	5		来所時のこども様子と保護者からの聞き取り分析を行い児童発達支援計画を作成している。	児童発達支援計画作成時以外でも保護者への聞き取りの機会を増やす。	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	5		定例会議の際、利用児の検討をする機会をもうけている。	今後も継続していく。	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	5		事業所内会議を行い職員間で共有している。	今後も継続していく。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化したツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	5				
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	5		今年度より支援計画の様式が変わり、対応できていない内容もある。	ガイドラインに従って支援内容の設定を行う。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	5				
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	5		年間を通して活動プログラムの内容と実施日をリスト化し活動内容が固定化しない様に新しいプログラムも都度取り入れている。		
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	5		発達段階に応じた個別、集団における課題を見つけ、支援計画を作成している。		
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	4	1		障界の了解やその場の流れで、職員に指示する事もあるので、事前に誰がどんな役割で支援するのか打ち合わせておきたい	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	4	1		「こうすればよかった」と思う点を職員間で共有がしづらい	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	5		支援計画に基づいた記録を行い、支援に繋げている。		
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	5		6ヶ月に1度以上はモニタリングを行い支援計画を見直している。		
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	5				
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	5				
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	5				
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。			今年度立ち上げの為、まだ情報共有を行っていない。		
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。					
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。					
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。					
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイザーや助言等を受ける機会を設けているか。	1	4	併用利用の児童に対しての連携は取り組んでいる。	今後スーパーバイザー、助言等の依頼を検討する。	
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	5		通所している子どもが通う保育園の行事を見る機会が設けられた		
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。			連絡帳アプリにて日々の活動内容や意見の聞き取りを行っている。		
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	3	2		現在は取り組めていない事項であるが今後検討していく。	
		35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	5		契約時に説明している。	
36		児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点から踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	5		アセスメント、モニタリング時に十分に聞き取りを行い、		

保護者への説明等	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	5		目標や支援方法を説明した上で同意を得ている。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	5		半年に一回の面談を行っている。また、相談したい事があれば随時対応している。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、さようだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。		5		保護者会等の組織はありませんが、必要があるかないかを保護者に伺ってまいります。また、交流の場としてイベント等開催を検討します。
	40	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	5		相談や申し出があった際は迅速に対応している。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	5		ブログ、しなやか牧だよりの発行	
	42	個人情報取扱いに十分留意しているか。	5		個人情報の研修を行い取り扱いに留意している。 個人情報のものは鍵付き	
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	5		連絡帳アプリにて日々の活動内容や意見の聞き取りを行っている。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		5		行事の開催を検討する。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	5		各マニュアルの策定、契約時に説明している。訓練は実施している。	玄関等に掲示し内容を周知する。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	5		策定、訓練等を行っている。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	5		アセスメント時に聞き取りを行っている。	
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	5		アセスメント時に聞き取っている。 現在対象児はいない。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	5		安全計画を作成し、研修、訓練を行った上で支援をしている。	
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	5		安全計画の内容の周知は足りていない。	取り組み内容を、連絡帳やブログなどを通して周知していく。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	5		定例会議の際、ヒヤリハットの内容を共有し検討している。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	5		定期的に虐待防止研修を行っている。	
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	4	1	相談、身体拘束適正化委員会を開催しており、保護者へは契約時に説明し、必要に応じて支援計画に記載している。	身体拘束の定義等の確認と職員間での安全確保の方法を共有する

公表	事業所における自己評価総括表
----	----------------

○事業所名	児童発達支援事業所 しなやかな森牧(児童発達支援事業)			
○保護者評価実施期間	令和7年 4月 1日 ～ 令和8年 1月 31日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	15	(回答者数)	12
○従業員評価実施期間	令和7年 4月 1日 ～ 令和8年 1月 31日			
○従業員評価有効回答数	(対象者数)	5名	(回答者数)	5名
○事業所向け自己評価表作成日	令和8年 2月 20日			

○分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個別療育と小集団の取り組み	小集団のときのプログラムに合わせた内容を個別支援計画にて作成し楽しく他児と関われるよう工夫している。 年長児童は数字を想定した遊戯を設置している。	園活動にマンネリ化しないように意見交換を活性化 する。
2	言語聴覚士・作業療法士の配置	各機能訓練担当職員と保育士とで情報を共有し、作業療法の訓練メニューを集団活動にも組み込んでいる	言語訓練を集団活動でも取り組めるように検討する
3	幼稚園・保育園・こども園など関係機関との連携に努めている	園と信頼関係を作って、情報共有し支援にいかしている 園での様子を保護者、園の保育士からとアラインし共有している	園、家庭、病院と連携を取っていくことで包括的にお子さんの支援に取り組む

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だとと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者同士が交流する場がない	交流を望まない保護者もいる。 保育園への送迎のため機会を作りにくい 人員や時間的余裕がない	保護者向けの研修の開催等を増やし、交流の機会を提供する
2	人材育成のための研修時間の確保	指導対象の研修・訓練は行っているが、それ以外の研修が少なく専門分野での共通理解が足りていない 人員や時間的余裕がない	言語聴覚士・作業療法士が在籍しているので各専門職からの内部研修の実施をおこなう

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日				
児童発達支援事業所 しなやかな森牧(児童発達支援事業)		令和 8年 3月 10日				
		チェック項目	はい	いいえ	工夫していると思う点・改善が必要だと思う点など	課題や改善すべき点
環境・運営・体制整備	1	訪問支援に使用する場合の教具教材は適切であるか。	3		視覚支援などで必要な教材は用意しているが使う機会が少ない。	
	2	利用希望者に対して、職員の配置数は適切であるか。	3		児童発達支援も兼務しているため、時間率や回数などは状況により希望に応じるための調整が難しい時や、多くの職員が関わることが難しい場合がある	
業務改善	3	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	3			職員会議などの場で、共有できるようにする。
	4	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	3			
	5	従業員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	3		関係する職員で意見交換をし、業務改善に努める。	会議等で発言を促していく
	6	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	2	1		外部からの第三者評価はおこなっておりません。必要により機会を設けるように検討いたします。
	7	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	3			事業所内研修、外部主催の研修等への参加あり
	8	個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、保育所等訪問支援計画を作成しているか。	3		園、保護者、訪問支援員から定期的なモニタリングをおこなっている	
	9	保育所等訪問支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	3		園、保護者、訪問支援員から定期的なモニタリング、支援計画案の共有をおこない支援計画に反映させている	
適切な支援の提供	10	保育所等訪問支援計画を作成する際には、訪問先施設の担当者等と連携し、訪問先施設や担任等の意向を盛り込んでいるか。	3			
	11	保育所等訪問支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	3			
	12	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	3			
	13	保育所等訪問支援計画には、保育所等訪問支援ガイドラインの「保育所等訪問支援の具体的内容」も踏まえながら、具体的な支援内容が設定されているか。	3			
	14	保育所等訪問支援計画が職員間で共有され、計画に沿った支援が行われているか。	3			
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	2	1		
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気づいた点等を共有しているか。	3			
	17	保育所等訪問支援を実施する際、訪問先の理念や支援手法を尊重して支援を行っているか。	3			
	18	毎回の支援に関して、記録を取ることを徹底し、支援の検証・改善に繋げているか。	3			
	19	定期的に保護者や訪問先の意向の確認やモニタリングを行い、保育所等訪問支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	3			
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	3			
	21	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	3			
	22	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。				
	23	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等に助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	3			
	24	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	3	2		
	25	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	3			
	26	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	1	2		
保護者等への説明等	27	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	3			
	28	訪問先施設に対し、事業の趣旨や訪問支援の目的等について適切に説明を行っているか。	3			
	29	保育所等訪問支援計画を作成する際には、こどもと保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	3			
	30	「保育所等訪問支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から保育所等訪問支援計画の同意を得ているか。	3			
	31	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか。	3			
	32	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	1	2		
	33	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	3			
	34	定期的に通信等を行うことや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	3			
	35	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	3			
	36	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	3			
訪問先	37	訪問支援に加え、訪問先からの相談等に適切に応じる体制を整え、必要な助言や支援を行っているか。	3			
	38	保育所等訪問支援の実施後に、訪問先施設とカンファレンスを行っているか。	3			訪問内容は書面にて報告、必要に応じてケース検討を行ってまいります。

施設 への 説明 等	39	保育所等訪問支援の実施後に、家族等へ適切に支援内容等の共有を行っているか。	3			
	40	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	3			
	41	訪問先施設からの相談に適切に応じ、信頼関係を築きながら、専門的な助言を行っているか。	3			
非 常 時 等 の 対 応	42	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	3			
	43	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	3			
	44	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	3			
	45	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	3			
	46	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	3			

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援事業所 しなやかな森牧(児童発達支援事業)		
○保護者評価実施期間	令和7年 4月 1日		令和8年 1月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	10 (回答者数)	10
○従業者評価実施期間	令和7年 4月 1日		令和8年 1月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	3 (回答者数)	3
○訪問先施設評価実施期間	令和7年 4月 1日		令和8年 1月 31日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象数)	1 (回答数)	1
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 2月 28日		

○分析結果			
	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	支援に携わる複数のスタッフで訪問先の様子の情報共有を行い、支援について考えることができる。	訪問スタッフと現場スタッフが密に連携をとって情報共有をしている。	情報共有したことを直接支援に携わる職員が、今後の支援の統一に向けてしっかり取り組むことを意識していく。
2	訪問支援事業を利用している子が、児童発達支援事業も利用しているため情報を共有しやすい	事業所での様子をみていただく機会を積極的に発信し、より充実した支援になるようにしていく	療育に結びつけやすい視点をもち支援の改善と取り組みを行う

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	希望があった場合、迅速な対応が困難。	限られた人員のため、希望があった場合に迅速な対応が困難。	保護者の要望と訪問先の職員との事前会議を通して、必要性を判断し、必要な期間、回数を決定していきます。
2	訪問先との訪問時以外の連絡や情報の共有がより必要。	訪問先と訪問時以外に情報共有を行う時間が短かったと思われる。	次回訪問時に課題や配慮が必要と思われる内容について文書で伝えることなど、積極的に情報共有を行っていく。